

編集後記

雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	21
号	1
ページ	200
発行年	2002-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008741/

会費納入のお願い

正会員，準会員，賛助会員で平成14年度会費の未納の方は，事務整理上至急ご納入下さるようお願いいたします。

払込みは北海道銀行当別支店（普通No.128259）宛，または同封郵便振替用紙をご利用下さい。（会計委員）

原稿募集について

次号（第21巻，第2号）の発行は平成14年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切りは平成14年9月30日必着と致します。期日厳守の上，ご投稿をお願い上げます。本誌投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。（編集委員会）

編集後記

巻頭総説第2弾は「味蕾細胞と神経」と題して，口腔解剖学第二講座の武田，内田，鈴木先生に執筆して頂きました。武田教授らは味蕾細胞のアポトーシスを抑制する因子が味蕾細胞の支配神経から放出されているとの仮説に基づき，神経の切断や再生にともなう各種の神経栄養因子やその受容体など，味蕾細胞における遺伝子発現の変化を詳細に調べて来られました。今後の展開が大変注目されます。本号にはこの他，原著論文7編，臨床論文5編と教育論文1編が収録されております。さて，次号の巻頭総説は人間基礎科学講座の橋本教授に執筆して頂く予定です。

禁忌肢の導入など出題方式が大きく変わり結果がどう出るか心配された歯科医師国家試験が好成績を収め，平成14年度，歯学部は幸先のよいスタートを切ることができました。研究面では，歯学部の科研費獲得金額が約1億1千万円と私立歯科大学ではトップクラスとなり，さらに，個体差研究所の大野所長が中心となって2年越しで推進してきたプロジェクトが学術フロンティアに採用され，脳研究施設と遺伝子機能解析施設を含む個体差研究所の第一期工事と実験動物センターの増築，高度化が実現する運びとなりました。新しい研究施設が盛んに利用され，歯学部の教育研究がいっそう活性化されることが期待されます。（田隈 記）